

平成31年2月8日

三好市議会議長 立川 一広様

報告者 田村 俊哉

下記のとおり、視察調査研究をいたしましたので、その概要を報告いたします。

1 期 間 平成31年2月4日(月)～6日(水)

2 参加者 立川一広、西内浩真、中耕司(清風政友会)
吉田和男、多田敬、大柿兼司(新生会)
古井孝司(公明党)
田村俊哉(無所属) 以上8名

3 視察先及び視察項目
静岡県伊豆市修善寺

(1)伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」

10:00～11:30

ジオパークの取り組みについて

(2)ドットツリー修善寺(特定非営利活動法人 NPOサプライズ)

13:00～14:00

民間出資100%による移住定住の取り組みについて

(3)伊豆市若者交流施設9Izu(クイズ)

14:10～15:10

伊豆市の移住定住の取り組みについて

4 調査概要

(1)伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」

伊豆半島ジオパークは現在15市町村が一体となり世界認定を受けて活動しています。伊豆半島のほぼ中央にある伊豆市修善寺にある「ジオリア」では目で見て、手で触る、耳で聴くことが体験できる施設です。

専門ガイドによる詳しい説明は来館者のニーズに合わせてプログラムを柔軟に対応できるようになっており、映像コンテンツは4カ国語に対応しています。伊豆半島の成り立ちを約7分間で見られるシアターは2000万年に遡ることができる内容で圧巻です。またドローン撮影を外部に委託せずに職員自ら撮影して四季のタイムリーな映像を頻繁に公開して来館者を飽きさせない内容となっている。

プロジェクションマッピングは単に地形の紹介ではなく、伊豆半島各地の魅力あるものを紹介している。他に顕微鏡コーナーや、水理模型があり中でも、水理模型では、5分間に大地の変化を目で確認できるようになっている。この実験では私たちの寿命は2秒間と聞き太古からの贈り物が現わされている。このように来館者は年々増え常設展示はもとより企画展の開催も熱心と感じた。

従来から有る修善寺総合会館の地下のフロアをリノベーションし今後はミュージアムショップの充実を図り収益増を見込んでいる。なお入館料は無料。

伊豆半島に今後このような施設を複数建設する計画ですが、休校の学校などを利用してリノベーションしていく計画がある。



(所感)

ジオパーク認定までの多くの試練を直接お聴きした。認定に向けてのプロセスにおいて重要なことは、まず三好市のそれぞれの地域には太古の昔からの贈り物がたくさんある事に気づくことから始まるということ、単に、地形や岩石、地層などを見るだけではなく、保護をしながらいかに地域経済の活性化に結びつけるかが大変重要だと感じた。

ジオパークについて興味を持ってもらうためにも、ジオガイドを養成する事の大切さを感じた。すばらしい景観や歴史、文化との関わりを正しい知識で若い世代に教育することで伊豆半島ジオガイド協会の『「見慣れた景色には意味がある」もっと楽しい伊豆半島をご案内します。』と言うように、私が住む地域の事を自らの手で言葉で伝えられるようにしたい。そうすればジオパークへの関心は非常に強くなるのお話を聞き感じました。

また、子供たちがジオパークについて教育を受け、住んでいる地域の素晴らしさを子供たちが今度は先生となり、大人たちの気づいていないこと教えると大人たちの反応は素直にそれを受け入れることが多いと聞きます。地域再発見の大きな役割があると感じました。

現在三好市では専門職員が1名であるが、日本ジオパーク審査委員でもあるジオリア職員からも720平方キロメートルの広さからもさらなる人員が必要であるとのご意見を頂いた、ただ急ぐは日本ジオパーク認定ではなく地域住民の活動への参加と認知、そして何より住んでいる地域の誇りを、時間をかけてでも焦らず作ること、その核となる活動が大切であると思う。地域経済効果が期待できるこのジオパークには一過性のイベント以上に持続可能性を持った事業展開ができると感じた。

ジオリア職員の説明に何度か我が三好市のジオについて語られた、「活断層や落合集落などのこんなに凄い地域の宝を地元の方は気づいているのでしょうか」羨ま

しく言うていただきました。そこに気づいていない私は大いに反省して今後に役立てられるようにしたい。

(2) 移住促進先進地 ドットツリー修善寺の取り組みについて

「日本中で深刻になっている人口流出産業の衰退と言う課題に対して仮説を立て解決するために作ったコンセプト賃貸物件新しい提案で他地域のモデルとなる仕組みを作り上げ、伊豆、ひいては日本の暮らし方を変えていく民間版地方創生を目指します。」とは2016グッドデザインしずおかにおいてマネジメント賞を受賞したのがドットツリー修善寺である。

700坪の敷地に2016年3月に12棟の住宅と15平米の小規模オフィスを整備、事業費2億円、芝生広場ではフリーマーケットやバーベキュースペースを備えている。ここは民間出資100%で実現した。移住定住のネックは働く場は常に考えさせられるが、起業家や個人 事業主に移住してもらおう仕組み創りのプロジェクトがスタートした。家賃は135000円しかし通常の賃貸契約ではあり得ない条件をクリアすることで30000円 減額となる。また1業種1社には入居者同士がビジネス上で競合せず協力できる環境を整備することが目的であり「伊豆の総合商社」を目指し挑戦している。

このような活動が成果を出している事から静岡県内各地の行政関係者が連日のように視察や研修に訪れている。



(所感)

実際に現地を視察してまず感じた事は賃貸住宅部分と店舗部分がわずかではあるが離れておりこれによって仕事と生活のメリハリを持てること、また入居者同士の距離感は昔ながらの長屋のような雰囲気や地域の自治会にも参加し地域住民ともしっかりと活動を共にしていることに移住が定住に変わったことの表れであると思う。シリコンバレーのようにIT企業の集合体や飲食の入居も当初から契約することは考えていなかった事に驚かされた。まさに人材不足の現代では人を雇うのではなく、家賃を払ってきてくれる12の事業所のプロフェッショナルの入居者同士がwin-winの関係を達成できる。伊豆市にとっては固定資産税、住民税、法人税などの税収は増え、民間が勝手に伊豆市のPRをしてくれる。この展開は我が三好市でも可能性を感じる。民間活力による行政に頼らない取り組みは大いに参考になった。

(3)伊豆市若者交流施設および伊豆市移住情報センター9izuの取り組み

伊豆市総合計画作成中の地元高校生へのアンケートに「あなたは将来、伊豆市に住みたいですか？」の問いに60%の高校生が住みたくないという答えを出した。そこで地域活性において（メンター）、（プラットフォーム）、（コミュニケーション）が大事だとされていることから交流拠点施設を作ろうということから始まる。

9izuの機能として

- (1)市内におけるまちづくり情報交流の場
- (2)市内におけるまちづくり担い手を育成する場
- (3)商業者、市民団体活動の場

9izuの効果

市内のまちづくりやイベントに関する情報を蓄積しながら、商業者、市民、若者などが気軽に立ち寄れる情報ステーション。商業者のスキルアップとまちづくり活動の担い手を育成するセミナー講座を開催し商業、まちづくりの人材を育成する。商業者や市民団体が気軽に使える会議実践活動の場となるスペースを提供する。各種セミナーや講座を開催することによってまちづくりに関心を持つ若い人材の育成を図るとともに、学生をイベントの企画運営に参加してもらい学生パワーを注入することでイベントの活性化をさせる狙いもあるまた学生にイベントを経験させることで社会経験を積み人材育成につなげる。

伊豆市未来塾の開催

「クラウドファンディングから学ぶ！リノベーションまちづくり」
伊豆市未来塾の開催は未来の活力を担う若者を対象に地域活性をテーマに企画実践することを目的とした実践型まちづくりワークショップを開催し毎年テーマを変えて行っている。
今年度はリノベーションをテーマにクラウドファンディング年間8回参加費は無料、定員20名で開催して多くの参加者が実施に向けて進めている。
平成28年度からは移住情報センターを設置し移住情報の発信基地としての運営をしている。移住体験ツアーの開催や移住ワンストップ窓口としての機能を果たしている。



9izuホームページより

(所感)

年に1回発行の子ども達を作る小冊子。KURURA(くるら)は来るよね?来るでしょ!を表す伊豆地方の方言だそうです。この地域に住む子どもたちとクリエイターと一緒にアイデアを出すことから始まる伊豆の情報誌は大人の感性には到底見できない視線から取材しています。ユネスコ登録記念しての特集はまさに先の研修先であったジオパークを通じて魅力を発見し次の世代の若きガイド役となるのです。三好市と同様に人口減少が課題でさまざまな取り組みの伊豆市においては高校を卒業するまでの時間に故郷の良さを実感して意見交換や体験を通してイキイキとしてみえる活動が多いと感じた。「人口減少は確かに深刻な問題ではあるが、逆に1人当たりの活躍できるスペースは広がった!もっと有効に活用することがこのまちにはある」と話していただいたスタッフの方の考えに共感することができた。

何より部屋中に貼られた地域の情報の多さ、印刷物による情報発信はホームページなどのネットに頼らない姿勢が目にと焼き付いた、もちろんインターネットを利用した情報発信はしっかりと行っている。その内容がいかに地域と密着しているかが重要だと思うが実際に手に取ると充実の内容でした。道の駅ほかいとるところに置いてありました。

今回の視察研修によりいかに地元の誇りを再発見できるか、そして発信できるかが重要だと感じいろいろなことに関心を持ちたいと強く決意した。

歡 迎

伊豆市若者交流施設 9izu・移住情報センターについて行政視察

(徳島県三好市議会会派 清風政友会・新生会・公明党・無所属)

日時 平成31年2月5日(火) 午後2時10分～

場所 伊豆市柏久保1304 9izu

～ 次 第 ～

- 1 開会
- 2 開会挨拶 (伊豆市議会総務経済委員会 杉山武司委員長)
- 3 訪問挨拶 (三好市議会会派代表 様)
- 4 伊豆市市政概要説明 (伊豆市議会事務局長)
- 5 視察調査事項の説明 (総合戦略課地域づくりスタッフ 高田)
- 6 質疑・応答
- 7 閉会

入場無料
Admission free

ジオリア GEORIA

「南から来た火山の贈りもの」を
さがしに行こう！

Let Us Explore "Volcano Gifts from the South"



アクセス Access

- JR 東海道新幹線
浜 浜 (Tokaido Shinkansen)
- 在来線・私鉄
Local Train
- 東名・新東名高速道路
Tomei Exp. / Highway
- 山梨県道
Shimada Exp. / Highway
- 主要道路 Primary Route
- 観光センター
Visitor Center

VC へのアクセス詳細はこちら
For more information

公共交通機関でお越しの方 伊豆箱根鉄道修善寺駅からバス約6分。
「修善寺温泉」または「虹の郷」行き、「修善寺総合会館」下車、徒歩すぐ。

Public transit

Taking a bus bounds of route number C10, C32 or C33 from Shuzenji Rail Station, and getting off at Shuzenji Sogo Kalkari.

お車でお越しの方 東名高速道路「沼津 IC」または新東名高速道路「長泉沼津 IC」から車で約40分（伊豆縦貫道路経由）。

Car

From Numazu IC of Tomei Exp. Highway or Nagai-zumi-numazu IC of Shizuoka Exp. Highway, it takes about 40 min.

駐車場について 無料駐車場あり（普通30台）。

満車、バスの場合は近隣の有料駐車場をご利用ください。

Parking

Parking lot is available.

- ・団体（15名以上）利用の場合は電話かwebサイトよりお申込みください。
- ・車いす可（事前にご連絡ください）。
- ・補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬等）同伴可。
- ・Group tour is kindly advised to book through the web site.
- ・Wheel car is accessible.
- ・Assistance dog can accompany.

ジオリア GEORIA

開館時間 9:00-17:00
Opening hours
(最終入館時間 Last admission 16:30)

休館日：水曜日 Days closed: Wednesday
(水曜が祝休日の場合は開館し、翌平日休館)

〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺 838-1 修善寺総合会館内
838-1 Shuzenji, Izu-city, Shizuoka, 410-2416 JAPAN
TEL. 0558-72-0525 <https://georia.izugeopark.org/>

コンセプト Concept

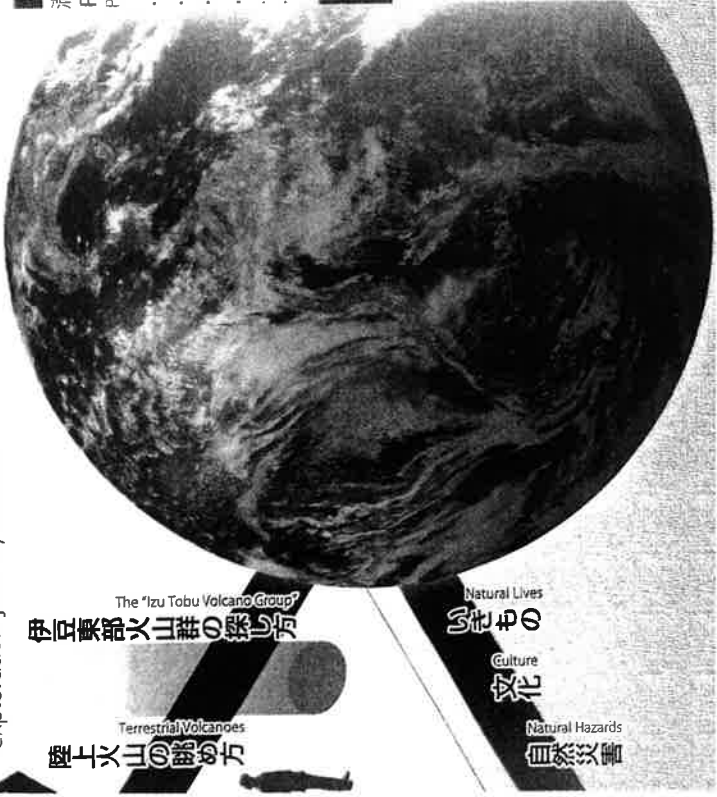
46億年前に誕生した地球は、その姿を変え続けてきました。大気中に酸素のない時期もありました。地球全体が寒く凍りついていた時期もありました。

大陸も初めからあったわけではなく、プレート運動や火山活動によって作られ、場所や形を変え続けています。伊豆半島を旅することで、そうした地球の動きの一端を目の当たりにできるかもしれません。

「ジオリア」は、あなたが伊豆を読み取り、もっと楽しむためのお手伝いをします。

We are able to trace the date of the initial age of the Earth about 4.6 billion years before. Since that time the Earth has been varied to date. For example, catastrophic events had occurred sometime, such as Oceanic Anoxic Events or earth surface entirely frozen. The localities and the area of the continents we see today have been moved due to the plate tectonics and volcanic activities.

You may feel and touch a glance of the "changing earth" through Izu Peninsula trip. The Izu Peninsula geopark museum "GEORIA" will support your exploration journey around Izu.



【シアター】 Theater: Introduction movie

伊豆半島の成り立ちを約7分で振り返るシアター。2000万年におよぶ壮大な大地の物語を知ると、伊豆の風景を見る目が変わります。

The introduction movie takes you back to the 20 million year time travel in seven minutes in five languages: English, Korean, Mandarin Chinese, Cantonese and Japanese.

【鳥の目で見ると伊豆の風景】

Mini theater: Bird's eye movie

マルチコプターで撮影した伊豆各地の空撮映像をご覧ください。これまでも少し違った視点で景色を眺めることで、新しい発見があるかもしれません。

The bird's eye movie brings you the amazing landscape of the Izu Peninsula which you have never experienced before.

【プロジェクションマッピング】

Projection mapping

伊豆半島の立体模型の上に地質や見どころ、温泉分布など、伊豆各地の魅力や特徴を映し出し、伊豆の旅のお手伝いをします。

Exploration of the Izu Peninsula by projection mapping which mirrors attractions and characteristics of the peninsula such as geological sites, their highlights and the distribution of the hot springs on the topographical model.

【顕微鏡コーナー】 Microscopes

迫力ある風景や力強く動く動物たちばかりが自然の魅力ではありません。ミクロの目で見ると自然にもまた不思議や魅力が詰まっています。簡単に扱える顕微鏡でミクロの世界を体験してみませんか。

Explore another world by microscopes. The nature of Izu is not appeared only in landscapes but also at the micro level world too. Handling microscopes is easy than you may expect.

【水理模型】

Hydraulic model

川の流れによる地形の変化を探る模型実験。ミニチュアの地形が目の前で次々に変化し、扇状地や河岸段丘などさまざまな地形がつくりだされます。

Hydraulic experimental model of river evolution. River erosion and sedimentation form various alluvial landforms. Meandering channel changes landforms constantly.





ドットツリー
.tree 修善寺

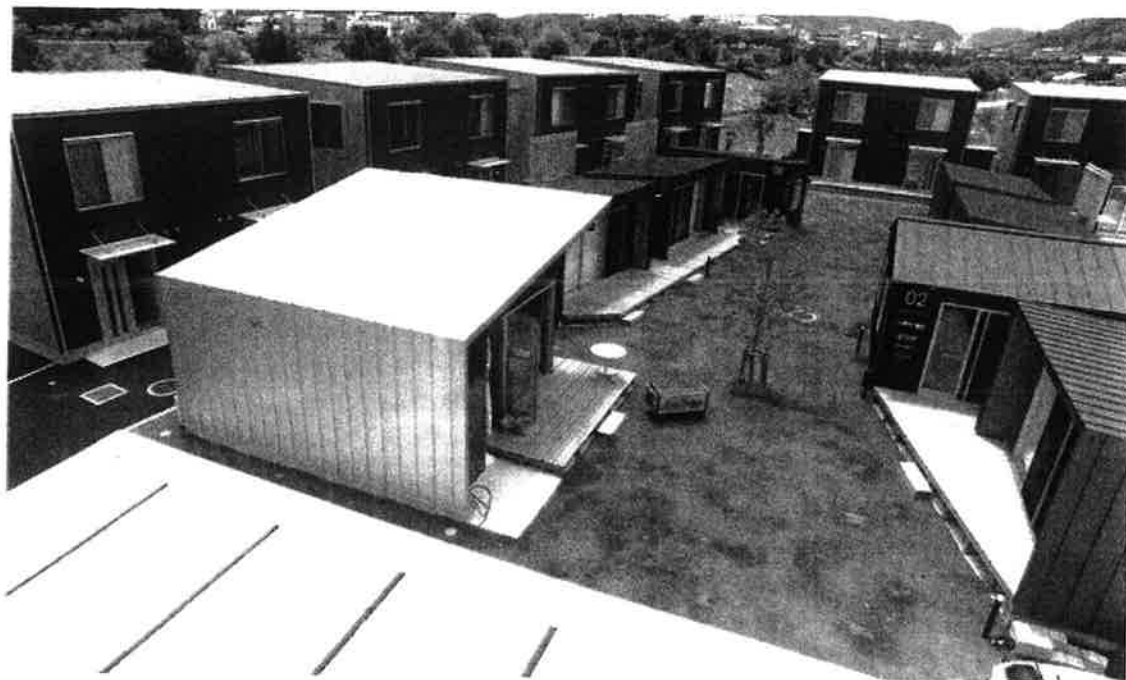
株式会社古藤田商店
特定非営利活動法人NPOサプライズ

伊豆市修善寺75ドットツリー修善寺管理棟内 TEL 0558-99-9141

<http://www.surprizu2012.jp/>

マネジメント賞

ドットツリー
.tree 修善寺



2016グッドデザインしずおか選定製品
思いがカタチになった12のものづくり

「住む」と「働く」をセットにした自由で新しいコンセプト住宅

小規模オフィスと住居をセットにした、新しいカタチのエアーマネジメント。
地方での新しいワークライフデザインの提案と創造によるまちづくり



株式会社古藤田商店 特定非営利活動法人NPOサブライズ

伊豆市修善寺75 ドットツリー修善寺管理棟内
TEL 0558-99-9141
<http://www.surprizu2012.jp/>

日本中で深刻になっている「人口流出・産業の衰退」という課題に対して仮説を立て、解決するために作ったコンセプト賃貸物件。新しい提案で他地域のモデルとなる仕組みを作り上げ、伊豆、ひいては日本の暮らし方を変えていく、民間版地方創生を目指します。

選定評

初期のコンセプトに基づいた建物と空間のあり方が見事に表現され、自由な雰囲気でのデザイン処理が、生活の新しさをも表現している。デザインが個体だけでなく、空間にまで、さらに生活にまで、マネジメントされていることを評価したい。



GOOD DESIGN SHIZUOKA



トルトツリープロジェクト

・伊豆市の背景

少子高齢

鳥獣被害

人口流出

産業衰退

伊豆市の問題

出生率低下

移住定住

観光衰退

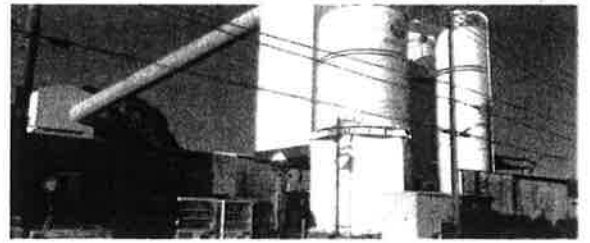
事業所数減少

2004年に4つの町が合併して出来た伊豆市であり伊豆半島の真ん中に位置している。主要産業は修善寺温泉・天城湯ヶ島温泉郷などの観光と日本有数のわさび、しいたけの農業などである。森林面積は全体の7割程度、静岡県で4番目に広い市町村であるが人口は2016年4月現在で3万2千人、合併時からは6千人ほどが流出し「人口減少危機宣言」が発令されている状況である。2010年に伊豆市総合計画を策定する中で市内高校生に「将来伊豆市に住みたいですか？」というアンケートを実施したところ7割弱の若者が「NO」と回答、理由としては「交通が不便」「仕事がない」「買い物する場所がない」「娯楽がない」などの意見が上がった。様々な施策に取り組んでいるが、流出とのスピードが合わないまま合併から時間が過ぎている状況である。



2014年4月9日

「生コンのプラント跡地が
空いたのだけど、何か良い案ないだろうか」



「これだけ大きな敷地で僕が
提案させて頂ける事は・・・無いです」



2014年6月

「色々な提案が来るが地域のためにはならない案件が多い」



2014年7月

「ソーシャルアパートメントというものが流行って来そうですね」



2014年10月

「地域活性になるような物件を作りたい！プロジェクトチームに参加を！」



「承知しました、目的は 移住定住ですか？それとも産業集積？」

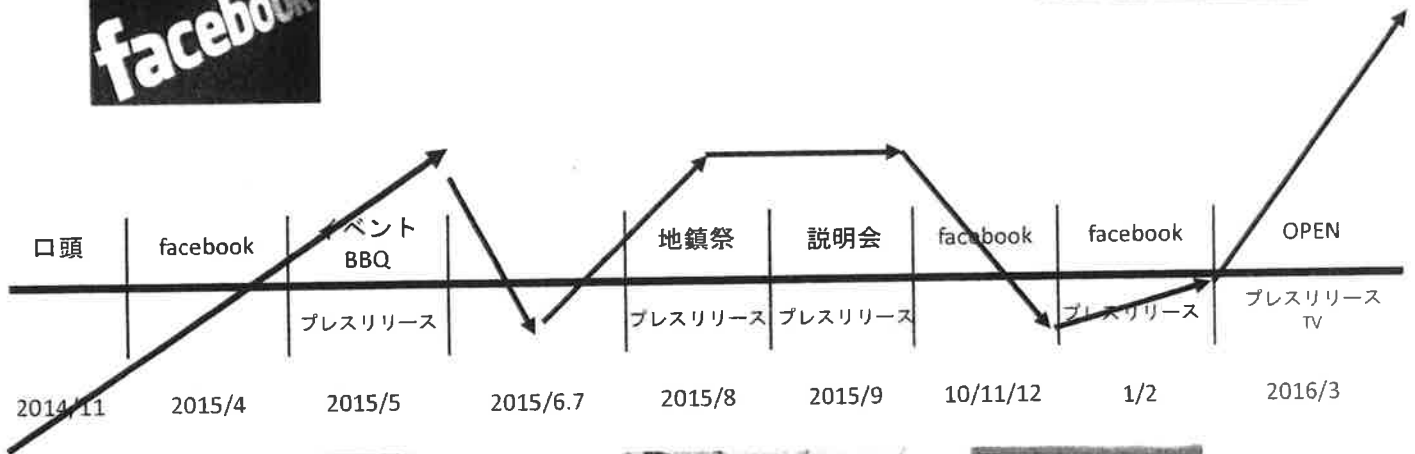
2LDK + 小規模オフィス + 広報アドバイス付き

③

- 2014/10 プロジェクトメンバー発足
- 2014/11 青豆ハウス（東京）DCV（岡崎）などを視察
- 2014/12 素案作成開始
- 2015/01 合宿開催
- 2015/04 プロジェクトスタート決定
- 2015/05 静岡デザイン専門学校生見学・事業説明会
建設申請作成・住民説明会開催
- 2015/07 オフィス棟 基本デザイン完成
- 2015/08 地鎮祭（県くらし環境部長・伊豆市副市長） 建設スタート
- 2015/09 第1回ドットツリー合同説明会 開催
- 2015/10 入居希望者 面接開始
- 2015/11 建設経過見学会
- 2016/02 ウッドデッキワークショップ開催・合同契約会
- 2016/03 完成！ 12棟中10棟入居

④

情報戦略の方法論 ドットツリーの場合



下調べ



⑤

ドットツリー・家賃減額について① ビジネス

【視察受け入れ】

ドットツリーでは2つの施設と合同し企業向け・行政向けの視察ツアーを実施します。
視察時に入居されている皆さんのオフィス様への見学等をお願いする場合があります。(事前連絡)住居棟への視察依頼は致しませんが全体的な整理整頓をお願い致しますまたぜひドットツリーについての積極的情報発信にご協力ください

【ビジネスマッチング】

ドットツリー運営会社、古藤田グループは建築資材・生コンを主として扱う会社です。また今回のような開発事業を進めていく予定です。皆さんのお知り合いなどで資材や建材また建物や開発を行う予定の方、ビジネス関連しそうな繋がり是非ご紹介ください。また皆様へのビジネスオファーも事務局からお願いする事があると思います。更に月に1度程度勉強会を開催しますので参加をお願いします

【講師マネージメント】

情報発信や視察を受け入れる関係上多くの方との接点が生れます。ドットツリーの方向性としては伊豆を元気にしたいと考えていますので皆さんの様な元気な方への講演依頼等をマネージメントさせて頂けたらと思っております。フィーについては入居後にご相談させて頂く予定となっております

ドットツリー・家賃減額について② コミュニティ

【ランチミーティング】

ドットツリーではビジネス的な観点だけではなく、入居されている12組の皆さんと常に情報交換をしながら楽しむコミュニティを創りあげて行きたいと考えています。そのため月に1度程度、ランチミーティングを行い交流を図っていきますので、ご参加をお願い致します。

【伊豆を元気にする会議】

ドットツリーのビジョンとして多くの方と出会い・集いそして伊豆を元気にしていきます。このため月に1度程度一般の方をお招きし「会議」という交流会を実施したいと考えています。この場では地域活性的な話やビジネスの話などで盛り上がり予想しています。皆さんにご参加頂けたらと願っておりますが、少々騒がしくなる事も考えられますのでご了承くださいませ。(深夜までは開催しません)

【伊豆を元気にするマルシェ】

ドットツリーでは地域の皆さんとのタッチポイントを増やす事を目的とした「マルシェ」を月に1度程度開催したいと考えています。この為、住居棟とオフィス棟の間にお店が並ぶ予定です。この点のご了承をお願いします。また出店希望の方などお近くにいらっしゃればぜひご紹介頂ければと思います

⑥

ドットツリー・コラボレーションプレイス 視察DMOツアー

美しい伊豆創造センター

「伊豆を一つに」をテーマに、世界から賞賛され続ける地域を目指し策定された伊豆半島グランドデザインを推進するために、美しい伊豆創造センターを設立。
美しい伊豆創造センターに、理事会、幹事会、事務局、3部会（観光・ジオ・道路）を設置し、それぞれがグランドデザイン推進のための事業計画の立案と執行について協議。
美しい伊豆創造センターには各市町首長を理事として置き、幹事会は各市町企画担当部課長、交通事業者・観光協会の代表で構成。

三島・大社の杜 (加和太建設)

ユニークで楽しさのある元気なショップと
様々なコミュニティ活動が繰り広げられる場所

伊豆国一の宮である三嶋大社の門前町をより活性化するために推進したプロジェクト「大社の社みしま」。この複合商業施設が、地域の企業が挑戦できる場であり、その結果この街に新たな産業や雇用を生み出す場になればと願っています。また、今まで発表の場が少なかった文化・芸術分野の方々の発表の場となり、地域住民の方々がそれに触れることで、文化に対する感性が向上すると思われまふ。そして街自体の魅力が向上し、近隣地域に刺激を与えることができるかもしれまふ。

熱海 ゲストハウス「maruya」

熱海が「もうひとつの日常」にguest house MARUYAのテーマは、「泊まると熱海がくせになる」。ゲストとまちの人、まちの暮らしをつなぐ役割を果たす場所です。ここに泊まり、地元の人や他のゲストと一緒にまちを歩く。向かいのカフェで地元の人と語り、とっておきの情報をもらう。今まで知らなかった、まちのつかいかたがここにあります。MARUYAを出る頃には、きっと熱海が「もうひとつの日常」になる。まずはちょっと、熱海につかってみまふか。

松崎交流拠点施設 「ふれあいとーふや。」

「日本で最も美しい村」連合に加盟する松崎町は8日、同連合の企業会員の富士ゼロックス（東京都）と共同で古民家を整備した交流拠点施設「ふれあいとーふや。」のオープン式典を開いた。情報通信技術（ICT）が整備された施設は9月末まで無料開放され、10月以降はシェアオフィスとして稼働する。施設は町中心部に位置し、15年ほど前まで豆腐店だった。3年前から空き家になっていたため、町が整備に着手。同社の協力を得て、テレビ会議システムや無料のWiFi（ワイファイ）、デジタル印刷機を導入した。ICTを活用したイベントを行って町内外、年代を問わず人を呼び込み、新たな事業やアイデアの創出の場を目指す。開放期間中は地域おこし協力隊が活動拠点として常駐する。

下田NanZ VILLAGE (ヴィレッジインク)

NanZ VILLAGEは2015年9月、伊豆下田にオープンした総合商業施設です。下田の豊かな海産物をベースとしたレストラン「NanZ Kitchen」や、マルシェ、カフェなどが開業すると同時に、開国の街、下田の新しいゲートウェイとして、人や文化の交流点となるような「場」（イベントスペース）としての役割を担います。

レストラン棟のカウンターや敷地外周に、製氷所の壁に使われていた伊豆半島産の伊豆石約200個を再利用した。天井のほりは製氷所と同じキングポストトラス構造を採用。国道と遊歩道側の壁面はガラス張りで、棟内や広場が透けて見える。あたかも海上の客船を陸地から眺めるように、街行く人の関心を引きつける仕掛け

DMOとは

日本版DMOは、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能。日本版DMOが必ず実施する基礎的な役割・機能（観光地域マーケティング・マネジメント）
また、地域の官民の関係者との効果的な役割分担をした上で、例えば、着地型旅行商品の造成・販売やランドオペレーター業務の実施など地域の実情に応じて、日本版DMOが観光地域づくりの一主体として個別事業を実施することも考えられます。

7



共同開発 古藤田グループ / プロジェクトデザイン・NPOサプライズ

着地型観光
6次産業/小規模小売
不動産/リノベーション
元地域おこし協力隊
キャニオニング/クライミング
翻訳家

アパレル(7店舗経営)
企画・地域プロデュース
プロカメラマン
トレイルランプロデューサー
WEB製作会社/ロボット関連
一級建築士

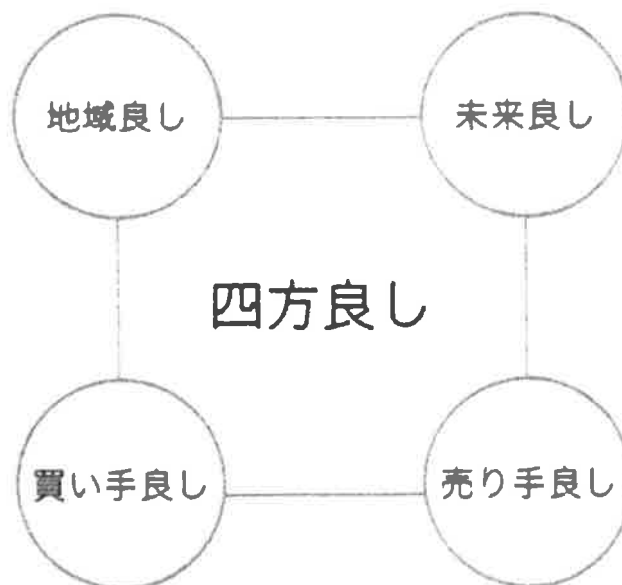
8

- ・ 宣伝広告費「0円」
- ・ 1業種1社
- ・ 飲食店はいれない？
- ・ 家賃3万円減額
- ・ 企画書がない
- ・ 積み重ねた延長線上
- ・ 民間投資100%
- ・ 地元の材木を使っているデッキ
- ・ オフィス棟の展示
- ・ 12事業部
- ・ 住働近接のメリット
- ・ 子供と親の距離感
- ・ コンセプトありきで契約
- ・ コンセプト無しでは難しい
- ・ 空き室 18%
- ・ 長屋的雰囲気

- ・ 説明会は1度のみ
- ・ 入居は面接がある
- ・ 20組以上が却下
- ・ 市内は4組 魅力あれば
- ・ 地域の総合商社
- ・ ワンストップサービス
- ・ 人への設備投資
- ・ 地方の可能性
- ・ なければつくれば
- ・ DMOの仕掛け
- ・ 協働事業展開
- ・ 家賃10万の効果
- ・ 依存しない体質
- ・ キャラ立ちしている
- ・ セカンドステップ
- ・ 固定、住民、事業税

⑨

- 人口が減るならば1人が使うスペースが増えていい
- 建築で体も心も頭も健康になる事が出来る
- 人を招きたくなる賃貸物件
- 土間が最高だった
- コミュニティの設計方法
- 地方創生の答えはスペースの使い方



⑩

徳島県三好市議会行政視察資料

～伊豆市の移住・定住の取組みについて～



伊豆市総合戦略課 2019.2.5

若者世帯の定住に向けて



平成21年6月 人口減少危機宣言を発令

伊豆市若者定住促進補助金の施行（平成22年度から施行）

【補助対象者】

夫婦のいずれかが満40歳以下の若者夫婦世帯

【住宅補助事業】

伊豆市に定住する若者夫婦世帯に対し、新築又は購入（建売又は中古の住宅の購入）により取得し、家屋登記をした住宅に対し、100万円（住宅のみ新築及び購入した場合は50万円）の補助金を交付。

また、購入した住宅に居住する小学生以下の子供1人につき、10万円の補助金を交付。

【賃貸補助事業】※平成28年度要綱改正により追加

民間賃貸住宅に居住する婚姻届の提出から1年以内の若者夫婦世帯に対し、24ヵ月間、月額2万円の補助金を交付。（家賃が月3万円以上であることが条件）

伊豆市の現状（合併からの人口の推移）



	人口 4/1現在	高齢者人口 4/1現在	高齢化率 4/1現在	社会増減			自然増減			増減数
				転入	転出	増減	出生	死亡	増減	
平成16年度	37,869	9,885	26.10%	1,310	1,435	▲125	217	442	▲225	▲350
平成17年度	37,519	10,018	26.70%	1,302	1,389	▲87	234	414	▲180	▲267
平成18年度	37,266	10,173	27.30%	1,308	1,381	▲73	175	435	▲260	▲333
平成19年度	36,939	10,425	28.22%	1,344	1,555	▲211	178	465	▲287	▲498
平成20年度	36,441	10,557	28.97%	1,248	1,375	▲127	212	453	▲241	▲368
平成21年度	36,074	10,700	29.66%	1,229	1,547	▲318	164	454	▲290	▲608
平成22年度	35,474	10,794	30.43%	1,047	1,375	▲328	163	512	▲349	▲677
平成23年度	34,820	10,744	30.85%	1,042	1,307	▲265	163	510	▲347	▲612
平成24年度	34,228	10,877	31.78%	996	1,227	▲231	143	467	▲324	▲555
平成25年度	33,855	11,197	33.07%	1,080	1,257	▲177	170	512	▲342	▲519
平成26年度	33,311	11,440	34.34%	925	1,209	▲284	147	490	▲343	▲627
平成27年度	32,678	11,688	35.77%	990	1,237	▲247	142	506	▲364	▲611
平成28年度	32,070	11,812	36.80%	1,054	1,160	▲106	120	465	▲345	▲451
平成29年度	31,625	11,988	37.91%	1,009	1,130	▲121	126	497	▲371	▲492
平成30年度	31,089	12,071	38.83%	804	675	▲129	95	330	▲235	▲364

※平成30年度の社会増減・自然増減については、12月1日現在の数値

伊豆市若者交流施設^{クイズ}9izuのご紹介

クイズ 9izu

〒410-2407 静岡県伊豆市柏久保1304 オリエンタルマンション1F (修善寺駅北口より徒歩1分)

TEL&FAX 0558-99-9120 (平日8:30-17:15) MAIL cityizu@gmail.com

Facebookは「伊豆市移住情報・若者交流センター9izu」で検索 <https://www.facebook.com/izushi.9izu>

平成27年作成

伊豆市若者交流施設9izu《クイズ》とは？

伊豆市若者交流施設9izu《クイズ》は、2011年4月にNPOサプライズがプロデュースのもとオープンした伊豆市の施設。2010年、伊豆市が総合計画後期を作成する中で地元高校生にアンケートを取った。内容は「あなたは将来伊豆市に住みたいですか？」。60%の若者が住みたくないという答えを出した。理由としては様々なことが考えられたが、「働く場所が無い」「娯楽がない」「買い物不便」など上がった。地域活性において「メンター」「プラットフォーム」「コミュニケーション」が大事だとされている中、9izuという「交流拠点」を作ろうということから進み始めた。

現在も9izuはNPOサプライズが運営中！（伊豆市からの委託）



前事務所（2014年12月まで）



2015年1月より
さらに修善寺駅に近い
現事務所へ移転！



宗島社『田舎暮らしの本』2015年4月号より

伊豆市若者交流施設9izu《クイズ》とは？

【9izuの機能】

①市内におけるまちづくり情報交流の場

市内のまちづくりやイベントに関する情報を蓄積しながら、商業者、市民、若者などが気軽に立ち寄れる情報ステーションとしての機能。

②市内におけるまちづくりの担い手を育成する場

商業者のスキルアップとまちづくり活動の担い手を育成するセミナー、講座を開催し、商業・まちづくりの人材を育成する機能。

③商業者・市民団体活動の場

商業者や市民団体が気軽に使える会議、実践活動の場となるスペースを提供する機能。

伊豆市若者交流施設9izu《クイズ》とは？

【9izuの効果】

①学生などの若者のまちづくりへの参画

「学生塾」の開催、若者によるまちづくり活動グループへの支援など、若者グループの活動をサポートすることで、まちづくりに関心を持つ若い人材の育成を図る。学生をイベントなどの企画・運営にも参加させ、学生パワーを注入することで、イベントも活性化させる。また、学生にイベントを経験させることで社会経験を積ませ、人材育成に繋げる。

②各種講座・セミナーの開催

「商業者のためのIT講座」、「市民向けIT講座」、「商業者のためのマーケティング塾」等「まちづくりセミナー」等を開催することにより、商業者のスキルアップや意欲あるまちづくりの担い手の育成を図るよう講座も実地する。

③まちづくり活動を行う個人・団体の交流の場の創出

商店街、市民団体など、市内で活動する個人・団体に活動の場を提供することにより、様々な活動を行っている個人や団体が相互交流する機会の場を提供する。

④HP開設・運営による情報発信

HPにより、まちの情報館としての活動を公開することはもとより、市内の様々なイベント、催しを紹介するなど、市内のにぎわい創出に向けた情報発信を行う。

伊豆市未来塾

伊豆市では、平成17年から「伊豆市人づくり事業」を開催し、若者のまちづくりへの意識啓発を展開してきた。『伊豆市未来塾』は、その一環として毎年テーマを変えて行っているワークショップ。平成23年度『伊豆市未来塾～週末起業編～』（第2期）からは、NPOサブライズが企画・運営。

平成25年度には「地元伊豆市をより元気な・魅力ある場所にしたい！」という思いを持った塾生が集い、地域の魅力を創出し、それを広く発信して地域の活性化につなげる『シティプロモーション』をテーマに、計7回開催。最終回では3チームが伊豆市長へ「伊豆市シティプロモーション企画」を提言。

⇒その後、それぞれのチームが提言内容を自分たちの手で実行・実現している。

(例：修善寺温泉街い〜ずらバル開催、こども未来塾開催、『伊豆市雇用プロジェクト-JOBS-』展開)



平成26年度伊豆市未来塾～『暮らしたくなる地域』をデザインしよう！！～で第5期目となった。

女性コミュニティ形成 (9izu活用促進事業)

【女性講座】

体験型講座を中心とし、おもに伊豆市内で事業を展開し活躍している女性を様々な分野から講師として選定し開催。地域の女性たちに伊豆市若者交流施設9izuを知ってもらう・気軽に訪問してもらう・交流の場をつくる、そして、講師の事業をPRすることを目的とした。

【女性ランチミーティング】

おもに伊豆市内で事業を展開している女性起業家(既に起業している女性も、今後起業を考えている女性も参加可)が9izuに集まり、気軽に情報交換をする場。ランチミーティングというフランクな場ながら、思いがけないアイデアが生まれることがある。参加者同士でイベント開催へ繋がった例もあった(市内老舗旅館で開催の体験型講座など)。



介護アロマ講座

ライフプランニング講座

フラワーアレンジメント講座

ランチミーティング

その他講座・セミナー (9izu活用促進事業)

各種講座やセミナーを企画・運営。まちづくりをしていく上で必要な様々な分野の第一線で活躍されている専門家や、若手で新しい取り組みを行っている方を選定し、各回の講師を依頼。様々な視点からの講義を聞くことで、実際の活動のヒントとなる様、講師選定や講義内容についても工夫をこらした。

また、平成25年度には経済産業省の担当の方を9izuに招き、『経済産業省第三回創業補助金公募・静岡県創業支援制度説明会』も開催した。この説明会を機に創業補助金の申請をしたところ、採択されたという市内の創業者から感謝の声も届いた。



3Dプリンタ講座



アイスブレイク講座



経産省補助金説明会



事業承継対策セミナー



プレスリリースセミナー



販売促進ゼミ

次世代育成：高校生支援

【修善寺大掃除】

『清掃甲子園』のロゴ入りピブスは、高校生の活動に賛同した伊豆中央ロータリークラブから2014年に寄贈していただいた



2011年11月、伊豆総合高校生徒会とNPOサプライズ・伊豆市若者交流施設9izu《クイズ》の協働により修善寺駅前地区を中心とした清掃活動『修善寺大掃除』がスタート。毎月1回1時間程度の清掃活動を行うことを目標に、地域の住民やNPOの協力のもと、高校生が主体となって町をきれいにする・地域と積極的にかかわっていくための仕組みをつくった。2012年には市内のもう一つの高校である土肥高校生徒会が参加。2つの高校がディスカッションを繰り返し、連携を取ることが決定。土肥での清掃活動も行うことができた。

【大場大掃除】

高校生たちは、大掃除を『100年後まで継続』させたい、次世代につなげたいと語る。毎回どなたでも参加可能！！

2013年1月、『修善寺大掃除』の活動に賛同した三島南高校生徒会により、大場駅前地区を中心とした清掃活動『大場大掃除』がスタート。大掃除の集合場所として、伊豆箱根鉄道本社に高校生が主体となって協力依頼。運営協力と本社社員の大掃除への参加という形で、地元密着企業とのコラボレーションが実現した。『大場大掃除』も毎月1回開催。



⇒そしてこの取り組みが、「高校生サミット」の開催、「大掃除マニュアルづくり」にも繋がった。

次世代育成：小中学生支援

Teens Design Lab

【ティーンズデザイン研究所】

— ティーンズデザイン研究所 —



～デザイナーと一緒にフリーペーパーを作ってみよう～ 『KURURA』の製作

修善寺南小では、平成22年度にデザインの特別授業が始まった。これは、沼津市出身で静岡県地域づくりアドバイザーであり、プロのデザイナーとして東京で活躍している浅井由剛氏(株式会社カラーコード代表取締役)の「子どもたちに『デザインとは何か』を伝えたい」という思いからNPOサブライズに相談があったことがきっかけである。浅井氏は、「地域(田舎)にこそデザインの力は必要である」という持論を展開し、デザインを活用し地域を活性化させていきたいと考えている。そこで、子どもの頃からデザインに親しむことで、小学生への「デザイナー」という職業の認知を促したいと考えている。1年目はロゴの製作、2年目は修善寺地区の観光マップの製作、そして3年目は、修善寺地区のグルメマップを企画していた伊豆市商工会と共同でマップ付きフリーペーパー『KURURA』の製作をした。平成26年3月には、完成発表会が行われ、市内各地で配布。また、製作した児童たちが6年生になり修学旅行で訪れた東京でも配布した。その後、NPOサブライズ主催の『伊豆市ティーンズデザイン研究所～デザイナーと一緒にフリーペーパーを作ってみよう～』に発展し、平成26年12月には伊豆市内の小中学生により『KURURA vol.2』が完成した。この取り組みには、「自分たちの暮らすまちの良さを知り、その良さを発信できる人材に育てほしい」という思いも込められている。



伊豆市移住情報センター9izu

平成28年度より、9izuに新たに「伊豆市移住情報センター」を設置し伊豆市移住情報発信基地として運営していくこととなった。市が進める移住定住促進事業のサテライトとして、9izuを有効活用し情報発信や相談業務等を通じて移住相談ワンストップ窓口としての機能を果たすことを目指す。

伊豆市移住情報センター
9izu

移住をお考えの方は
まずこちらへ

- TEL 03-30-17-1610(平日)
- TEL 03-30-17-1611(土日祝)
- TEL 0558-06-0130
- EMAIL cityzu@nifty.com

伊豆市への移住をお考えの方は、伊豆市移住情報センターの伊豆市移住情報センター(9izu)までご連絡ください。お住まいの地域・生活形態・移住希望のフェーズなどにより、専任スタッフが最適なサポートを提供いたします。



「伊豆市の暮らし方」

2017/11/11・12

伊豆市移住ガイドブック「伊豆すまいる」より

平成29年追記

伊豆日新聞

伊豆日新聞
 伊豆の郡市三編191-1
 〒410-2321
 電話 0558-76-4760
 FAX 0558-76-4725

伊豆新聞本社
 〒414-0054
 伊東市黒田1290-6
 電話 0557(36)1234

伊豆新聞ニユースサービス
 http://izu-np.co.jp

空き店舗や軽トラ活用

伊豆市未来塾

ベトナムは3グループ・1人提案

伊豆市が主催する「伊豆市未来塾」の最終回セミナーが19日、柏原のツインズビルで開催された。過去2年に続き、インターネットで自分の企画に対する小口資金提供を呼びかける「クラウドファンディング」を活用する提案が、

クラウドファンディングを活用、3グループが企画案を提案したほか、講座を主催するベトナム人投資家代表の野崎清志さんが、同ビルにある空き店舗の活用方法を提案した。

本日で山を下り、お盆帰りのアト、共有スペースの「学生も大人も気軽に使えるワーキングスペース」が発表された。これは別荘を借り、今後クラウドファンディングを始める。お盆までに始めたい。約80%が乗った。これは具体的な立案は呈示なかった。



会場にした空き店舗の利用方法を説明する野崎さん
 二伊豆市柏原のツインズビル

着にまつもののスーツとして使われることを提案。「1人で9年目の手度、10人のオナはリベーション（再生）がテーマ。2人が参加し、ゲストを招いた座談会やアイデア作成など計4回の講座に取組んだ。同ビル所有の10坪男性も学生として参加し、空き店舗の活用アイデアを求めたため、特別に便宜が提案されたこととして、野崎さん提案を活用した。野崎さんは「修善寺地区」と題し、共有スペースとして活用する

「1人で9年目の手度、10人のオナはリベーション（再生）がテーマ。2人が参加し、ゲストを招いた座談会やアイデア作成など計4回の講座に取組んだ。同ビル所有の10坪男性も学生として参加し、空き店舗の活用アイデアを求めたため、特別に便宜が提案されたこととして、野崎さん提案を活用した。野崎さんは「修善寺地区」と題し、共有スペースとして活用する

静岡県伊豆市に移住しませんか？

伊豆市暮らしのすすめ

本当の「豊かさ」が、
ここにはありました。



快適なアクセス

東名高速道路と新東名高速道路、伊豆縦貫道(今後さらに延伸)により、首都圏や県外からのアクセスも快適！東京ICから車で約100分、新幹線利用なら東京駅から最短約95分の近さです。東京駅から修善寺駅まで直通の特急踊り子号を利用して、約2時間10分の距離となっています。

豊富なアクティビティ

身体1つで渓谷を下る“キャニオニング”をはじめ、キャンプ、海水浴、ダイビング、鮎釣り、ハイキングなど様々なアウトドアアクティビティが身近な場所で楽しめます。また市内に多くの源泉があり、共同浴場や温泉スタンド、珍しい温泉の自動販売機など、日常的に温泉を利用できます。

若者定住支援・出産子育て

- 住宅支援(※申請条件あり)
 - ・最大100万円の住宅補助金で住宅取得を応援！
 - ・賃貸の家賃にも補助金を交付！
- 出産子育て
 - ・出産準備手当、不妊治療費助成、妊婦検診受診票交付、出産予定日以降の妊婦検診助成等
 - ・こども医療費助成、児童手当、チャイルドシート無償貸出・購入補助、通学補助金交付制度等

- ご希望に応じたお住まい(中古物件・賃貸物件等)探しをサポートします。
- 市内求人情報や起業に関する情報(支援制度等)をご提供します。
- 生活スタイルにあった移住エリア・リアルな生活環境をご紹介します。
- その他、行政と連携しながらあなたの移住・定住をサポートいたします。

私たち9izu相談員がサポートいたします！



伊豆市移住情報センター9izu<<クイズ>> まずはお気軽にご相談ください！

〒410-2407 静岡県伊豆市柏久保1304(伊豆箱根鉄道修善寺駅北口より徒歩1分)
営業：平日8:30~17:15 TEL/FAX: 0558-99-9120 MAIL: cityizu@gmail.com
※お車でお越しの方は駅北口コインパーキングをご利用ください。FBページは「9izu」で検索。



平成 30 年度伊豆市未来塾 受講生募集

小さなリノベ・DIYのための資金調達 ～クラウドファンディングから学ぶ！リノベーションまちづくり～

「クラウドファンディング」とは、世界中で注目されているインターネット上で資金調達をする手法です。クラウドファンディングを上手く活用することで、企画やサービスの開発に必要な資金を集めることができるだけでなく、より多くの人へ向けて自身の考えを認知してもらうことができます。

今回の未来塾では、「リノベーション」をテーマにクラウドファンディングに挑戦します！例えば「店舗や地域拠点にみんなで憩えるスペースを作りたい(家具、棚、机、椅子など)」「地域イベントに出店するための小さな屋台がほしい」「地域の花壇を改修して美しい街並みにしたい」等の小規模なものから「空き家をリノベーションしてゲストハウスを作りたい!」「自分たちで手を加えてお洒落なカフェにしたい」等の大きな企画を考えている方も、実践的に学べるチャンスです！

事例紹介では、ゲストに必見のスペシャリストたちも登場！ぜひお気軽にご参加ください♪

【講座日程】 全8回講座 火曜日 19:00～21:00 (18:45 集合) ※各回の内容は変更となる場合もあります。

- 第1回 7/10…オリエンテーション、事例紹介①：「熱海 guest house MARUYA」市来広一郎氏、ディスカッション
- 第2回 8/7…クラウドファンディング概要、事例紹介②：「修善寺 Hostel Knot」山本涼平氏
- 第3回 9/4…事例紹介③：「富士 MARUICHI BLDG.1962」佐野壮一氏
- 第4回 9/25…事例紹介④：伊豆半島の事例
- 第5回 10/16…グループワーク、チームエントリーシート作成
- 第6回 11/6…グループワーク、クラウドファンディングチャレンジ
- 第7回 11/27…プレ・プレゼン、クラウドファンディング進捗状況報告
- 第8回 1/15…市長へのプレゼンテーション（結果報告）



- 【対象】 リノベーションやクラウドファンディングに興味のある方
やってみたい企画はあるけれど資金の無い方、共に行動する仲間が欲しい方 等
- 【定員】 20名程度
- 【会場】 伊豆市役所 生きいきプラザ（伊豆市小立野66-1）第1・2会議室および第3・4会議室（回による）
第1回は第1・2会議室で開催
- 【参加費】 無料
- 【主催】 伊豆市
- 【企画運営】 特定非営利活動法人NPO サプライズ
（伊豆市若者交流施設9izu《クイズ》を運営中）

「伊豆市未来塾」では、未来の活力を担う若者を対象に地域活性をテーマに企画・実践することを目的とした実践型まちづくりワークショップを毎年開催しています(今年度で9期目)。

【申込み・問い合わせ】 伊豆市若者交流施設9izu《クイズ》

TEL&FAX：0558-99-9120（平日 8:30-17:15）メール：cityizu@gmail.com

・TEL 以外のお申込みはこちらからの返信をもって受付完了となります。

・お子さま連れの方へキッズスペースを設置します(要予約)。

9izu

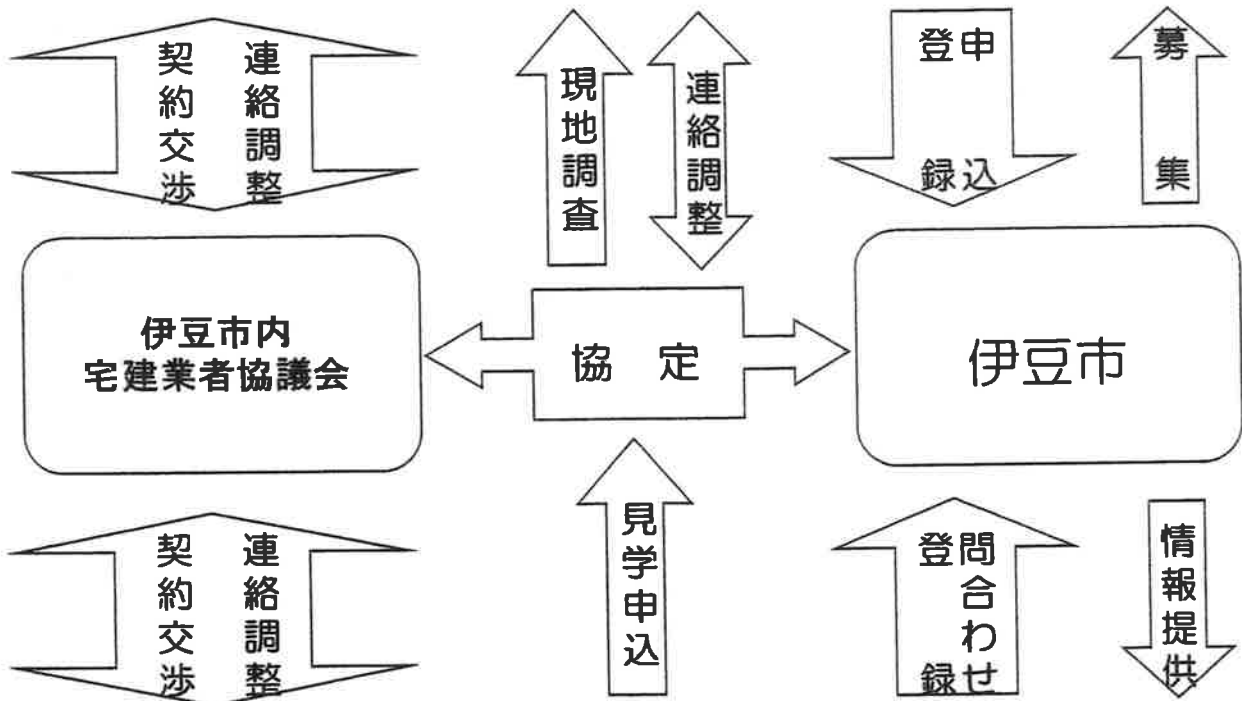
【 FAX 申込み用紙 】 FAX 番号：0558-99-9120

フリガナ 氏名	
ご住所	〒
電話番号	
メール	※cityizu@gmail.com から受信できるもの
年齢	
備考	

伊豆市空き家等情報提供制度

市は売買又は賃貸の仲介を行っていませんので、交渉及び契約の際は、市と協定を結んでいる伊豆市内宅建業者協議会の仲介による契約交渉となります。

空き家の提供者（貸主/売主）



空き家の利用希望者（借主/買主）

伊豆市 若者定住促進補助金 のご案内 (貸貸補助事業)

伊豆市



伊豆市役所 市民課 庶務係
〒410-0201 伊豆市 本町1-1-1

伊豆市若者定住促進補助金について

伊豆市では、安心して生活できる住宅環境の確保と、快適で魅力あるまちづくりを図るため、伊豆市に定住する若者に対し、予算の範囲内において補助金の交付を行います。

補助の対象になるか
チェックしてみよう！

補助対象者

- 1 婚姻届の提出から1年以内で、夫婦のいずれかが満40歳以下の若者世帯であること。
- 2 補助金交付後2年以上継続して補助の対象の住宅に居住すること。
(新たに市内の賃貸住宅に移住する場合、又は市内に居住する場合を除く)
- 3 居住する世帯員が市町村税、上下水道使用料、保育料、授業料等を滞納していないこと
- 4 家賃の額(駐車場使用料及び共益費を除く)が、月3万円を超えていること。
- 5 勤務先等からの家賃補助を受けていないこと。
- 6 過去にこの告示に基づく補助金、その他の補助を受けていないこと。

チェック

補助対象住宅

- 1 民間賃貸住宅の所有者(3親等内の姻族を除く)との間で賃貸借契約を締結した賃貸住宅とする。
(市営等の公的賃貸住宅、社宅、官舎、寮、会社名義の賃貸住宅を除く)
- 2 賃貸住宅とは居室、便所、台所及び風呂を備えているものをいう。

チェック

補助金額

交付額は月額2万円とし、期間は交付の決定した月から24ヵ月間となります。

申請方法

この事業の補助金を受けるには、下記の書類をそろえて市役所総合戦略課（本庁）までご持参ください。

- 1 伊豆市若者定住促進家賃補助金交付申請書（様式第4号）
- 2 賃貸契約書の写し
- 3 家賃内訳証明書（様式第5号）
- 4 若者夫婦世帯の住民票（続柄記載のあるもの）
- 5 戸籍謄本の写し
- 6 世帯員全員の過去3年間の納税証明書

チェック

補助金の交付決定

必要書類をチェックしましょう！

補助金の交付申請があった場合、市がその内容を審査し、伊豆市若者定住促進家賃補助金交付・不交付決定通知書（様式第7号）により申請者に通知します。

補助金の請求

補助金の交付決定を受けた者は下記の請求期間内に、伊豆市若者定住促進家賃補助金交付請求書（様式第11号）に捺印して市役所総合戦略課へ提出してください。請求書が提出された後、市は現地を確認し補助金を交付します。

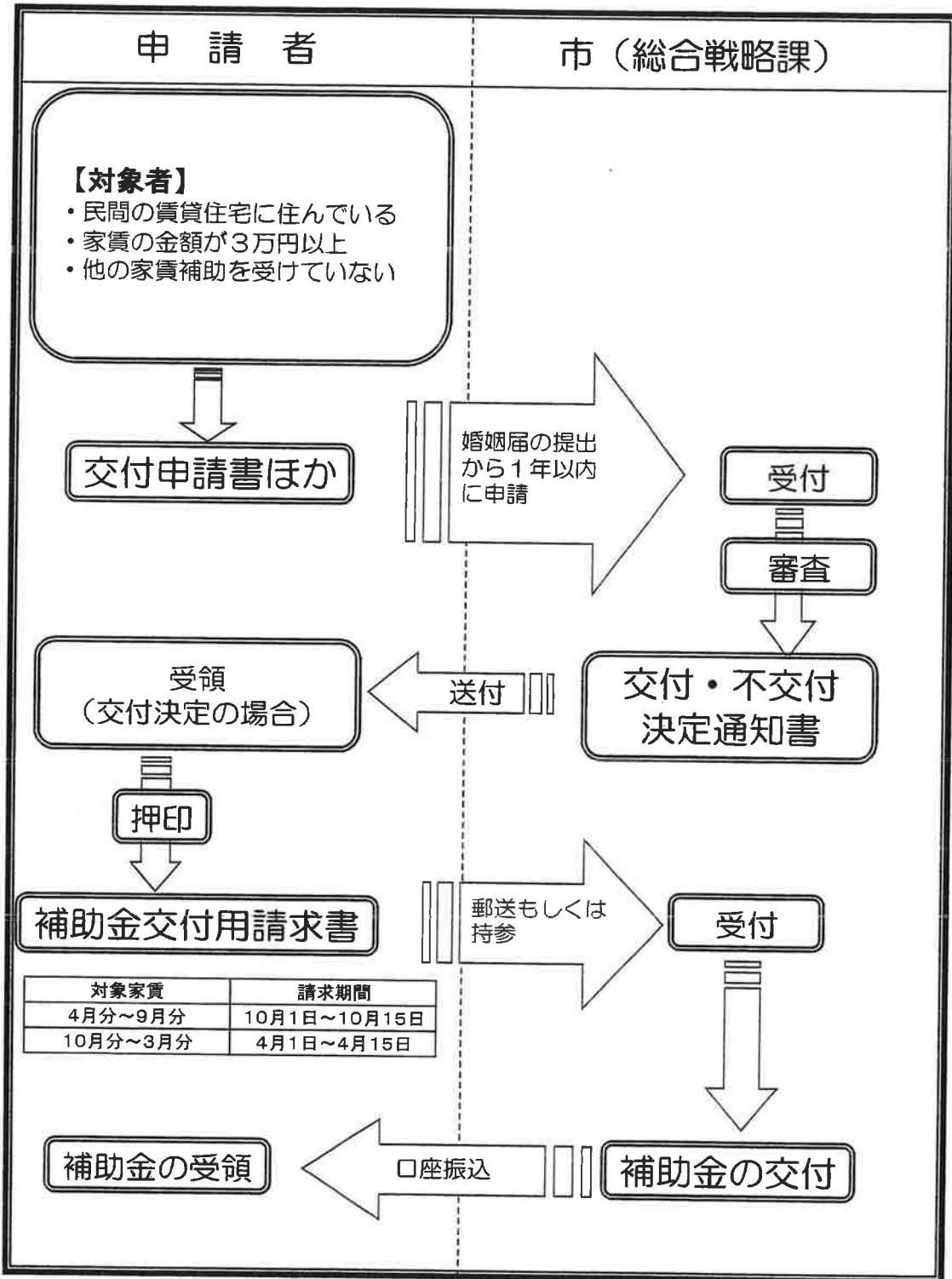
対象家賃	請求期間
4月分から9月分	10月1日～10月15日
10月分から3月分	4月1日～4月15日

申請の変更

該当賃貸契約等に変更が生じた場合は、下記の書類をそろえて市役所総合戦略課に提出してください。

- 1 伊豆市若者定住促進家賃補助金変更交付申請書（様式第8号）
- 2 賃貸契約書の写し
- 3 家賃内訳証明書（様式第5号）
- 4 若者夫婦世帯の住民票（続柄記載のあるもの）
- 5 戸籍謄本の写し
- 6 世帯員全員の過去3年間の納税証明書

伊豆市若者定住促進補助金（賃貸補助事業）
申請手続きの流れ



問い合わせ 〒410-2413
伊豆市小立野38-2
伊豆市役所 総合政策部 総合戦略課
TEL 0558-74-3066 FAX 0558-72-6588

伊豆市
若者定住促進補助金
のご案内
(住宅補助事業)

伊豆市



伊豆市若者定住促進補助金について

伊豆市では、安心して生活できる住宅環境の確保と、快適で魅力あるまちづくりを因るため、伊豆市に定住する若者に対し、予算の範囲内において補助金の交付を行います。

補助の対象になるか
チェックしてみよう！

補助対象者

- 1 夫婦いずれかが満40歳以下の若者世帯であること。
- 2 補助金交付後10年以上継続して補助の対象の住宅に居住すること。
- 3 補助金交付後10年以上継続して伊豆市に住所を有すること。
- 4 取得住宅に夫婦で住んでいること。
- 5 新たに土地及び住宅または住宅を購入したものであること。
(住宅の夫婦共有名義は対象となりますが、親との共有名義は対象外となります。)
- 6 居住する世帯員が市町村税、上下水道使用料、保育料、授業料等を滞納していないこと。
- 7 過去にこの告示に基づく補助金その他の補助を受けていないこと。
(賃貸補助事業を除く)

チェック

補助対象住宅

- 1 平成31年12月31日までに市内に新築又は購入（建売又は中古の住宅の購入をいう。以下同じ。）により取得し、家屋登記をした住宅とする。
- 2 住宅とは、居住目的に玄関、居室、便所、台所及び風呂を備え、延べ床面積が80㎡以上のものとする。
- 3 相続、贈与等の取得対価を伴わない場合は対象外とする。

補助金額

補助金の交付額は、住宅の購入費用の範囲内

- 1 土地及び住宅を購入した場合、上限を100万円とする。
(賃貸補助事業の交付を受けた場合は1/2の額)
- 2 住宅のみを購入した場合、上限を50万円とする。
(賃貸補助事業の交付を受けた場合は1/2の額)
- 3 補助金の対象となる夫婦の子で、購入した住宅に居住する中学校就学の始期に達するまでの児童に対して1人につき、10万円を交付する。

申請方法

この事業の補助金を受けるには、新築又は購入した住宅及び土地の登記が完了した日から90日以内に以下の書類をそろえて市役所総合戦略課（本庁）までご持参ください。

- 1 伊豆市若者定住促進住宅補助金交付申請書（様式第3号）
- 2 土地売買契約書及び建築請負契約書等の写し（取得対価のわかるもの）
- 3 補助を受ける住宅及び土地の登記事項証明書（全部事項証明書）の写し
- 4 住宅の間取図
- 5 世帯員全員の住民票（続柄記載のあるもの）
- 6 世帯員全員の過去3年間の納税証明書
- 7 土地の賃貸借契約書（住宅のみ購入者に限る）

チェック

必要書類をチェックしましょう！

補助金の交付決定

補助金の交付申請があった場合、市がその内容を審査し、伊豆市若者定住促進家賃補助金交付・不交付決定通知書（様式第7号）により申請者に通知します。

補助金の請求

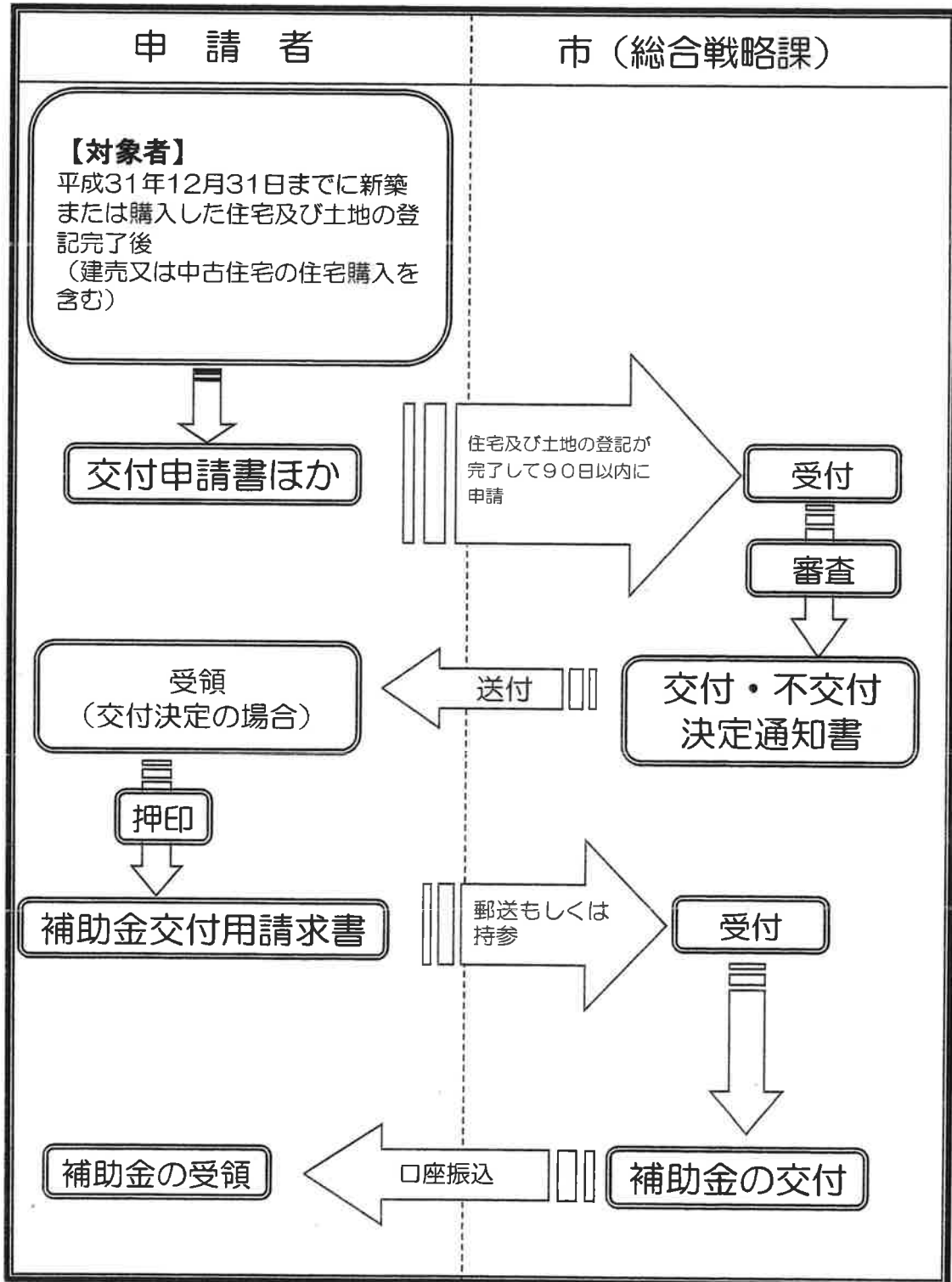
補助金の交付決定を受けた者は、伊豆市若者定住促進住宅補助金請求書（様式第10号）に捺印して市役所総合戦略課（地域づくりスタッフ）へ提出してください。請求書が提出された後は、市は現地を確認し補助金を交付します。

（注）補助金の返還

- 1 市長は、偽りその他不正な手段により補助金の交付を受けた者に対して、交付した補助金の全部または一部の返還を命ずることができます。
- 2 補助金の交付を受けた者が、補助対象の住宅に10年以上継続居住できないことになった場合は、速やかに伊豆市若者定住促進補助金返還届出書（様式第12号）により市長に報告し、補助金の一部を返還しなければなりません。

この場合の返還額は、補助金交付額を10で除した額に10年を満たない期間の年数（1年未満の端数が生じる場合は切り捨てるものとする。）を乗じた額となります。

伊豆市若者定住促進補助金（住宅補助事業）
申請手続きの流れ



問い合わせ 〒410-2413
伊豆市小立野38-2
伊豆市役所 総合政策部 総合戦略課
TEL 0558-74-3066 FAX 0558-72-6588

伊豆市若者定住促進補助金(家賃)年度別集計表

平成31年2月4日 現在

		件数	人数	大人	子供
平成28年度	市内	6	12	12	0
	市外	0			
計		6	12	12	0

平成29年度	市内	2	4	4	
	市外	3	9	6	3
計		5	13	10	3

平成30年度	市内	0	0	0	0
	市外	2	4	4	0
計		2	4	4	0

		件数	人数	大人	子供
市内(定住者)		8	16	16	0
市外(移住者)		5	13	10	3
計		13	29	26	3

伊豆市若者定住促進補助金(住宅)年度別集計表

平成31年2月4日 現在

		件数	新築	中古	内建物のみ	人数	大人	子供	内中高等学校
平成22年度	市内	7	5	2	—	30	14	16	—
	市外	5	3	2	—	19	11	8	—
計		12	8	4	—	49	25	24	—
平成23年度	市内	10	5	5	—	38	20	18	—
	市外	14	10	4	—	45	30	15	—
計		24	15	9	—	83	50	33	—
平成24年度	市内	15	11	4	—	66	36	30	—
	市外	9	7	2	—	33	19	14	—
計		24	18	6	—	99	55	44	—
平成25年度	市内	24	9	15	—	92	50	42	—
	市外	14	2	12	—	55	32	23	—
計		38	11	27	—	147	82	65	—
平成26年度	市内	24	23	1	—	95	55	40	—
	市外	14	10	4	—	47	30	17	—
計		38	33	5	—	142	85	57	—
平成27年度	市内	33	28	5	—	122	70	52	—
	市外	13	11	2	—	34	26	8	—
計		46	39	7	—	156	96	60	—
平成28年度	市内	25	19	6	—	103	54	49	—
	市外	10	8	2	—	32	20	12	—
計		35	27	8	—	135	74	61	—
平成29年度	市内	22	18	4	—	96	48	48	—
	市外	13	9	4	—	47	27	20	—
計		35	27	8	—	143	75	68	—
平成30年度	市内	21	15	6	—	75	42	33	—
	市外	8	7	1	—	21	16	5	—
計		29	22	7	—	96	58	38	—
		件数	新築	中古	内建物のみ	人数	大人	子供	内高等学校
市内(定住者)		181	133	48	—	717	389	328	—
市外(移住者)		100	67	33	—	333	211	122	—
計		281	200	81	—	1050	600	450	—



今日は9izuに徳島県三好市議会の皆様が視察にいらっしゃいました！

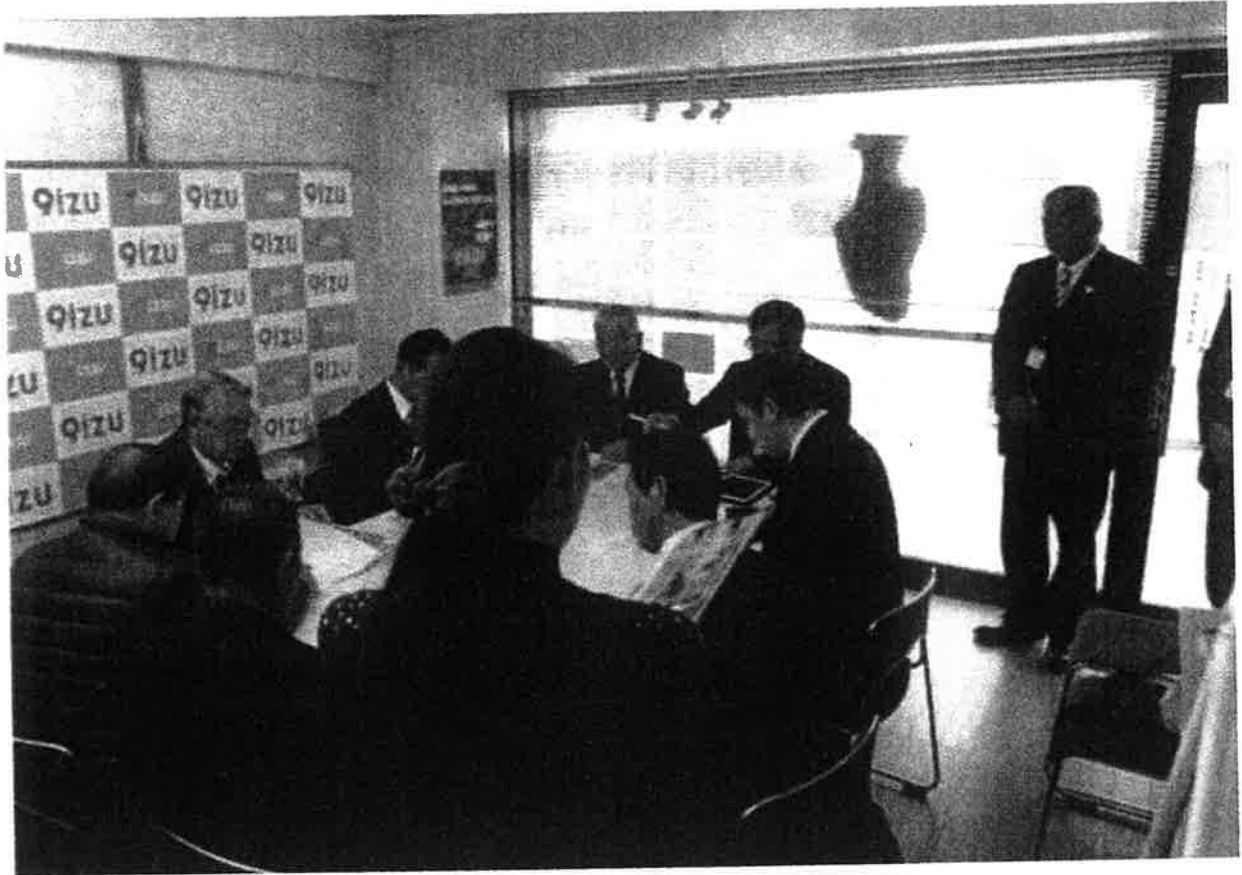


伊豆市移住情報・若者交流センター9izu

2月5日 16:30



今日は9izuに徳島県三好市議会の皆様が視察にいらっしゃいました！



伊豆市移住情報・若者交流センター9izu

公共・行政サービス

メッセージを送信

いいね! コメントする シェア

👍 11人



コメントする...

徳島県三好市議会の皆様が視察にお越しくいただきました！



いやあ嬉しいです ものすごく嬉しいです！ あの徳島の三好の皆さんが、わざわざドットツリーを見にきてくれたんですから！
三好にはちょうど1年前にお伺いをし企業誘致などの担当の方にお話を聞いてきた場所なんです！
サテライトでもものすごく頑張られている町なのに、そこから修善寺に視察に来ていただけるというのは本当に光栄です！
ありがとうございました！